

麻生多摩美の森だより

第5号 2004年6月30日発行 発行；麻生多摩美の森の会
発行責任者；勝田 政吾 編集者；木村 信夫

平成16年度の抱負

本年の抱負を語る前に、大変悲しいお知らせをしなければなりません。我々の健康の森にも何回かおいで下さりご指導いただいた北澤清先生には今年に入って体調を崩されたと承っていたのですが、5月初めに亡くなってしまいました。これまで伺ったお話はほんの入門篇であり、これから本格的にお教えいただこうと思っていた矢先のことで、天命の致すところとはいえ痛恨の極みであります。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、我々の健康の森活動も3年目に入り、作業のサイクルが大分決まってきた感じが致します。現在の状況を整理してみますと、

1. 植樹作業が一巡した感じがある。
2. 畑仕事は今のところ、作業の種類・時期・作業量とも大体把握されてきた。
3. 道具・器具類はかなり充実した。
4. イベント関係は一応定着した。

といったところかと思えます。

一方、問題点として

1. 作業内容が決まってきた分、珍しさが少なくなってきた感じがする。
2. 畑仕事と植樹箇所の除草が季節的に重なり、ちょっと油断すると始末がつかなくなる。これは作業参加人数とも関連する。
3. 他所も同じようだが、作業参加人数が少なくなっている。

会長 勝田 政吾

といったところが見受けられます。

そこで、こういった状況の下での対策として作業日雨天の際の振替日及び補助作業日の設定を行なった上、電話連絡の実施も検討しています。これは同時に参加人数増加策の一部にもなると思います。

また、この森の特質をよく調べる必要があります。広場の草刈りをしていると珍しい形の植物、可憐な花をつけた植物に出会いますが、雑草として一概に刈り取ってしまうのはいかにも惜しい感じがすることがよくあります。

また笹藪も1年で伸びるという考え方で部分的に刈って行く計画を以前立てましたが、実際に刈った後を見ると必ずしもそうでもなく、よく観察して計画を立て直す必要があります。このように、定説をうのみにせずキメ細かく観察して柔軟な計画を立てて行くというのがこれからの課題かと思っています。

皆様から積極的にアイデアをだしていただきより良い健康の森にして行きたいと思えます。

故・北澤清先生 03年9月の樹木講座。
ご冥福をお祈り申し上げます。



森との出会い・人との出会い

麻生区役所地域振興課 豆白 保雄

この4月の異動で、“麻生区市民健康の森”の活動に参加させていただくようになりました。私が市民健康の森を知ったのは、平成15年4月区政推進課に配属になり区内施設を見学したときが初めてでした。そして、11月の収穫祭に参加させていただき、おいしい豚汁や焼き芋をご馳走になりました。その活動の中で地域の小学校と連携を図り授業に協力をしたり、竹炭を焼いたり、そばや野菜を栽培するなど多種多様な取り組みをされていることを知りました。また、何よりも参加者の皆さんがとても楽しんでいるということを実感しました。

5月22日、よみうりランドで川崎市職員の運動会があり、その前に麻生区長、地域振興課長とともに藤棚の御披露目に参加させていただきました。想像を超えた大変立派な藤棚で、それを作るのに、木の切り出しから組み立て、設置まで総て市民健康の森参加者の皆さんの力で完成させたと聞き、さらに驚きと感動を受けました。この藤棚の制作を通して、早野聖地公園里山ボランティアとの交流も新たに生み出されたものと思います。この藤棚に、2年後、3年後、藤の花が咲き、多くの区民が市民健康の森を訪れ、藤棚の下でお弁当を広げ、自然と触れ合う姿が思い浮かびます。市民健康の森が麻生区の健康とレクリエーションの場、地域コミュニティの場として区民に愛され、親しまれるよう、1日1日の作業を積み重ねて行くことが大切だと思います。

まだ、作業日には参加していませんが、参加したときにはよろしくご指導をお願いします。市民健康の森の中で多くの人々と出会い、多くの動植物との出会いを楽しみにしています。

小学校の総合的な学習の教材準備

副会長 長澤 宗幸

私たちの活動の中に「畑管理分科会」があり、森の一部を開墾し各種作物の栽培をしています。森の畑より収穫された作物は、小学校の「総合的な学習」の教材としても活用されます。

<麦の栽培と収穫>

*昨年に種まきをした「大麦」と「小麦」は、6月初めに刈り取りとなりました。

昨年秋、四つ目や三つ目のくわを使って畑を起こし、うねを作って麦畑の準備をしました。11月には別途調達した大麦と小麦の種をまきました。発芽は順調で、麦踏みも行い、下草取りも2回行い、良好な栽培管理のもと、昨年同様の豊作が期待されました。

5月の下旬から6月にかけて天気を見ながら刈り取りし、はさ掛け天日乾燥し、千歯こぎで穂をはずし、木づち等で叩き脱穀しました。最後は17日に小麦の脱穀収穫となりましたが、収量は大麦・小麦それぞれ20Kgでした。

<学習教材として活用>

今年も、小学校より「麦」を使つての学習を要請されるものと期持しています。

金程小学校の予定

- 1回目 5/28 実施済 3年生 65名、多摩美の森で学習、会員7名で対応
- 2回目 6月中下旬 多摩美の森で
- 3回目 10月下旬 金程小校舎内で

西生田小学校の予定

- 10月中旬 1日目 多摩美の森で
- 2日目 西生田小校舎で

会員の皆さん、私たちで栽培・収穫した収穫物を活用し、森の恵みや自然のしくみなど若い世代に伝えていこうではありませんか。今回も宜しくお願い致します。

藤棚作りの記・その2

大塚 伊四郎

3月11日からの藤棚準備作業は、丸太の皮むきから始まりました。鎌でおそろおそろ薄く削り始めましたが、相当に樹皮が厚く、徐々に大胆に削るようになりました。材の両端を切って長さを揃えました。根元の方は太いうえに硬く、鋸を動かすにもかなりの力が必要で、木が切れる前に息が切れました。

次いで棟梁の手で丸太に墨打ちがなされ、それに従って我々は電動ドリル・ノミ・金槌でホゾ穴を掘りました。しかし、“右甚五郎”の悲しさで、予想外にホゾ穴が曲がるうえ、腕・肩・腰が悲鳴をあげました。でも、「このような珍しい体験は二度となかろう」という思いで、一同は頑張りました。

藤棚を支える四本の柱用に、深さが90cmの穴を掘りました。深さと水平度を慎重に確認しながら穴底に「よいとまけ」を施しました。幾度も微調整のため、穴に土を入れたり、逆に取り出したり、これもかなりの苦行でした。穴底には石盤が必要とのことで、コンクリート塊を拾い集め、タガネとハンマーで砕きました。“穴太(あとう)の石工”ならぬ多摩美のセメント割りには「割れて砕けて裂けて散るなり」で、細か過ぎてやり直しのご下命となりました。

重い吊鐘に耐える鐘楼の柱は、中心に向かって傾斜する“四方転び”の技法が使われているそうです。この藤棚の柱もその“四方転び”にするべく、穴に微妙な傾斜をとのご下命に、我々は七転八倒しました。結果として、完成した藤棚の柱を、皆さんはどうご覧になりますか？

草刈機の安全作業

木村信夫

草刈機は、むきだしの刃が1秒間に100回転もの高速回転をする機械で、手足に当たれば軽く切断され、また跳ね飛ばした石が目当たり失明などという事故が絶えません。

小生の郷里での事故例。作業中「おじいさん、お昼だよ」と声をかけられ、機械ごと振り向いたとたん、そばまで来ていた愛妻のお腹に回転刃が接触。長期入院して治ったものの、穏やかな老後の日に悲しい事件でした。

今回は、作業者も周りの人も必要な注意点。

作業者と他の人は15m以上離れて(子どもは特に近づけないよう注意、犬も)。

作業者に用事のあるときは、正面から身振りで合図し、作業者は必ずエンジンを止めてから近づいて話をする。



エンジンの始動は、周りに人がいないところで、刃先に石などが無いことを確認して。

エンジンをかけたまま持って、運搬したり他の人に近づいたり、絶対しない。

草が巻きつくなどで回転が止まり、チェックする際、必ずエンジンを切る。草を除いた途端負荷がなくなり急回転し大ケガの例も。



04年3月 藤棚の上棟

平成 16 年度の活動予定

副会長 平林 謙三

16年度も、もう6月に入りました。里芋の植付け、藤棚のお披露目も無事終わりました。

次に麦の収穫とサツマイモの植付けが続きますが、それを過ぎるといよいよ夏のどんどん伸びる雑草との戦いが始まります。

今回は総会後初めてお配りする『森のたより』なので、来年3月までのスケジュールをざっとお知らせします。

なお、作業時間は6月から9月の4ヶ月間は夏時間で午前9時から11時まで、その他の月は通常の午前10時から12時まで、となっております。

- | | |
|----------------|---------------------|
| 6月6日(日) | 麦の収穫・サツマイモの植付けなど |
| 6月19日(日) | 草刈り、樹木苗木・畑の手入れ、清掃など |
| 7月 3日(土) | 草刈り、蕎麦の播種 |
| 18日(日) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 8月 1日(日) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 14日(土) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 9月 4日(土) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 19日(日) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 10月 3日(日) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 16日(土) | サツマイモの収穫 |
| 11月 6日(土) | 里芋の収穫、収穫祭の準備 |
| 21日(日) | 収穫祭・植樹祭 |
| (予備日11月23日(祭)) | |
| 今年も盛大に行う予定です。 | |
| 12月 5日(日) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 18日(土) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 1月 8日(土) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 16日(日) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 2月 6日(日) | 炭焼きの準備 |
| 19日(土) | 炭焼き |
| 3月 5日(土) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |
| 20日(日) | 草刈り、苗木・畑の手入れ |

そのほか我々の活動に関係のある催しとしては、次のようなものが予定されております。

- (1) 第12回全国雑木林会議多摩大会が10月1日(金)、2日(土)、3日(日)パルテノン多摩などで開催されます。
- (2) 川崎市市民健康の森フォーラムは、今年は幸区で行われます。会場・日時は未定です。
- (3) 川崎市市民自治創造フォーラムは、3月12日(土)、13日(日)高津区の市民活動センターで行われます。
- (4) 里山フォーラムin麻生は3月、麻生市民館で行われます。日時は未定です。

『からむし - 苧麻(ちょま) ともいう - 』

『からむし』は麻と共に縄文時代から衣服を作る繊維を取るために採集・栽培されてきた草です。

良く育つと高さは2メートルを越えます。麻生区内の各地に雑草として生えていて、麻生の地名の由来もこの『からむし』から来ているとも言われています。

健康の森でもこれを植えて育て、織物は難しいので、紙でも作ってみようかと考えています。(平林記)



広報編集室からのお知らせ

次号は、9月発行の予定です。皆さんからの投稿をお待ちしています。

連絡・投稿先

木村 信夫 044-954-7855

fwhp6921@mb.infoweb.ne.jp

森 正昭 044-951-1089

BYA15610@nifty.com